

国語科における授業マネジメントに関する研究

～OPPシートを活用した授業実践を中心にして～

M10EP003

笠原 健

はじめに

今年度の実習は授業力の向上を目標とした。教師の専門性の中で、授業を行う力は非常に重要である。そのために教師は自身の授業を適切に評価し、改善をしていかなければならない。そのために、自身の授業をマネジメントする方法について研究を行いたいと考えた。

図1に示したように、教師は単元全体および授業のPDCAサイクルを機能させる必要がある。その中で、特に授業の評価を「自己評価」と実習校の指導教員による「他者の視点」、自身の授業に関して生徒と教師双方が活用できる「一枚ポートフォリオ評価(OPPA)」の3つを取り入れる。そして、授業マネジメントは、授業における「指導と評価の一体化」を実現させることと定義する。

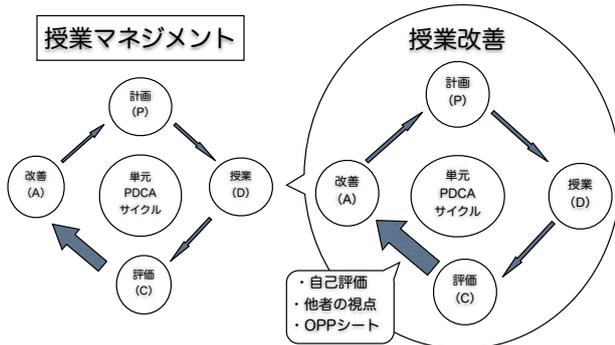


図1 授業マネジメントの概要と構造

1. 研究の目的

授業マネジメントは、PDCAサイクルの全ての段階で行われるべきものである。また、指導案やOPPシートの作成も含め授業全体に関わるものである。したがって、今回の研究では図1に示した3つの評価の観点から、授業の評価を行う。そして、反省点と改善点

から、「指導と評価の一体化」を目指し、授業改善の観点を明確にすることを目的とした。

2 研究の方法

(1) 実習の概要

実習校：山梨県立H高校 普通科1年生

実習期間：2011年4月～2012年1月

授業実践：2011年10月～2011年11月

単元：現代文「ものとことば」全12時

授業の具体的内容は表1に示す。

表1 授業の構成

授業字数	計画	実時間
第1時	本文通読・OPPシート記入・語句確認	本文通読・OPPシート記入
第2時	段落分け(全5段落・重要語句確認)	段落分け(全8段落中4段落)
第3時	第1・第2段落の読解(ワークシート)	段落分け・第1段落の読解
第4時	第3・第4段落の読解(ワークシート)	第2～第4段落の読解
第5時	第5段落の読解・作文(文意の具体例)	第5段落の読解
第6時	作文の交流	第5・6段落の読解
第7時	OPPシート記入	第6段落の読解
第8時		第6・7段落の読解
第9時		第7段落の読解
第10時		第7・8段落の読解
第11時		第8段落読解・OPPシート記入
第12時		OPPシート記入

表1のように、第8～12時は当初計画に無かった部分である。今回の授業実践は計画よりも大幅に延びてしまった。

単元目標「論理的文章の読解の仕方と理論構造を理解し、評論文に慣れる」授業実践以外の期間は主に観察実習を行った。

(2) 研究で作成・使用したOPPシート

今回は授業実践にOPPAを取り入れた。OPPシートは、生徒が具体的な内容を通して自身の変容を可視的に自覚するものである。

今回使用した OPP シートを図 2 に示す。

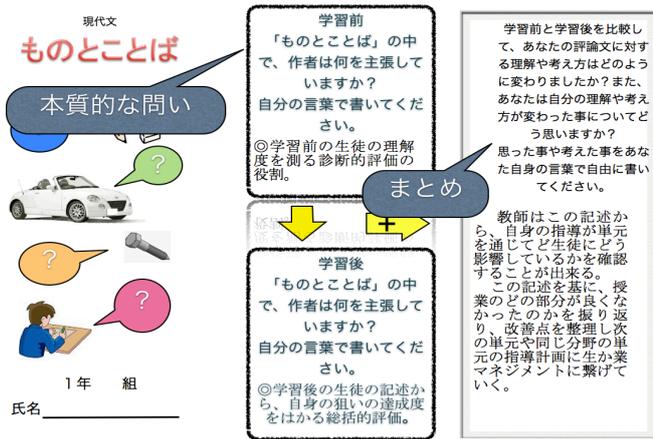


図 2-1 OPP シート (表)

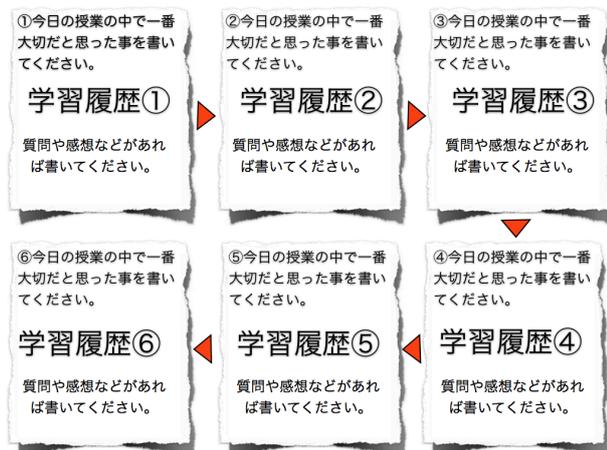


図 2-2 OPP シート (裏)

(2) OPP の記述を利用した授業改善

①授業力を向上させるためのツール

学習履歴(図 2-2)の記述を基に、教師は次の授業を改善する。通常は、単元の途中で指導の方向性を大きく変えることは難しい場合が多い。しかし、学習履歴の記述によって、大幅な変更を行うことも可能になる。

②生徒の知識や考えを把握する為のツール

例えば本質的な問いでは、診断的評価や、授業終了時の総括的評価を行う。それらを PDCA サイクルの全ての段階で活用する。

(3) 実習校で受けた指導と実習記録から

①実習校での指導から

授業実践の中で、実習校の先生に指導や助言をいただいた。授業改善を行う上で、他の教師の視点からの評価や意見は貴重である。したがって、これらの内容を整理することで授業に不足していたものを明確にしていった。

②実習履歴から

授業実践中の自己評価や、改善の反省を実習記録から抽出し、整理した。その結果から課題を明確にし、授業改善の観点とした。

3. 授業実践の結果

(1) OPP シートの記述から得られた結果

表 2 のように、今回の授業実践において、OPP シートの記述から得られた視点を、5 つの視点で分類した。表中の①～⑭は、授業展開の時系列に沿った番号として示した。

表 2 OPP シートの記述から得られた結果

授業実践の結果 (OPP シートの記述から)
(1) 授業の意図に関するもの
②授業の中で行った活動自体を記述している生徒が多い。(意図が伝わっていない)
④本文の構成を把握するというねらいではなく、段落の分け方自体を記述している生徒がいた。
⑤大筋ではこちらの意図した内容を記述してくれた生徒が多かった。(4時間目)
⑧8時間目から自分の言葉で意図した内容をまとめられる生徒が出てきた。
⑭このころから、箇条書きでも意図した内容を書いてくれる生徒が多くなった。(全体の4分の3)
(2) 個人の学習状況に関するもの
③意味段落分けが難しかったという印象と、シートの記述が一致していた。
⑦授業の中で触れた生徒の解答に納得できず、自分の考えを書いてくれた生徒がいた。(意見は誤り)
⑨本文の内容について自分なりに考えた意見を書いてくれる生徒がいる。
⑩内容がわからないと、きちんと書ける生徒が増えた。
⑪注目する部分は合っているけど、その内容を自分の言葉で説明するまでには至っていない生徒が多い。
⑬8時間目から自分の言葉で意図した内容をまとめられる生徒が出てきた。
⑭このころから、箇条書きでも意図した内容を書いてくれる生徒が多くなった。(4分の3)
(3) 授業方法の改善に関わるもの
②授業の中で行った活動自体を記述している生徒が多い。(意図が伝わっていない)
④本文の構成を把握するというねらいではなく、段落の分け方自体を記述している生徒が多い。
⑧授業の最後に扱った内容しか書けていない生徒や、抽象的な記述のみ。
⑩内容がわからないと、きちんと書ける生徒が増えた。
⑫「板書の配色がわかりにくかった」など、具体的に詳しくい部分指摘する記述が出てきた。
⑬OPP シートを書く時間が充分に取れなかったり、休み時間まで延びてしまったりすることがあった。
(4) OPP シートの本質的な問いが構成に関するもの
①1時間目に記入する「学習前」と「学習履歴」の内容が同じ生徒が多かった。
⑥自分の言葉で書くのが難しいという感想があった。
⑧8時間目から自分の言葉で意図した内容をまとめられる生徒が出てきた。
(5) 自己評価について
③意味段落分けが難しかったという印象と、シートの記述が一致していた。
⑨本文の内容について自分なりに考えた意見を書いてくれる生徒がいる。
⑭自分では解りにくかったと予測していた授業の時に予想

①授業の意図に関するもの…【②④⑤⑬⑭】

自分が授業で伝えようとしていた内容が生徒に伝わっているかどうかを確認し、授業改善に利用したもの。

②個人の学習状況に関するもの…【③⑦⑨⑩⑪⑬⑭】

生徒の個別の状況から具体的な指導の改善に繋がったもの。

③授業方法に関するもの…【②④⑧⑩⑫⑮】

具体的な授業改善に有益だったもの。

④OPPの本質的な問いや構成に関するもの…【①⑥⑬】

OPPシートの書法や構成に関して改善が必要な内容や、改善に有益だったもの。

⑤自己評価に関するもの…【③⑨⑩】

授業に対する自己評価を行う際に、参考にし、改善に役立ったもの。

(2) OPPシートの記述例

①本質的な問いによる授業改善

本質的な問いの生徒の記入例は図3に示す。

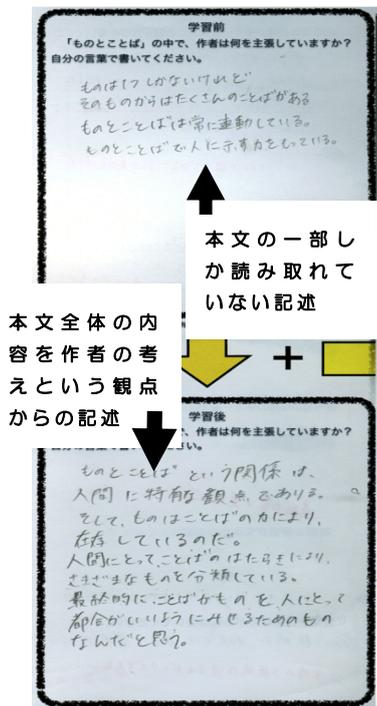


図3 本質的な問いの生徒の記入例

このことから、今回の授業実践は改善点も多いが、大筋でねらいを達成できたといえる。

しかし、学習後の記述には、「なぜ、言葉が都合のいいように見せかけているのか」という視点が含まれていない。したがって、個々の授業内容等には授業マネジメントを行う上で、多くの改善点がある事が読み取れる。

②まとめ（学習前後の比較）による授業改善

図4の生徒は、学習前には評論文とは、ひとつの「もの」についてだけ述べているものであると感じていた。

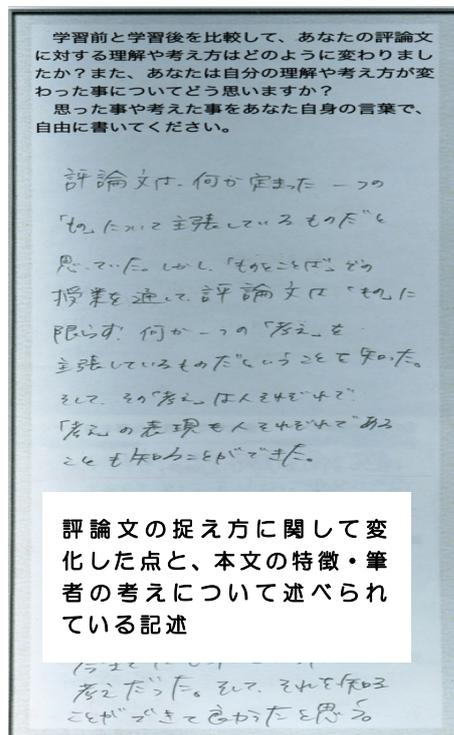


図4 まとめ（自己評価）の生徒の記入例

で使用された言い換えや比喩に触れることでその表現方法が多様であることを学習している。このような記述から、今回の単元が国語科の学習として一定の効果があつたと言える。

しかし、自分の変化に対して考えた事に触れておらず、評論文の読解方法自体に関する記述も無い等、課題もあつた。したがって、今後の評論文の授業では、その部分に関わる指導を行う必要があることが読み取れる。

③学習履歴による授業改善

毎時間記入する学習履歴の生徒の記入例は図5に示した。

この生徒は学習履歴⑤で、語句の意味が解ったことを一番大切な事として記入し、加えて感想を書いている。本来、この授業では「全てのものには名前があり、指すものは同じで

しかし、授業終了時には評論文の内容は、筆者の考えを述べたものである事を理解している。さらに、筆者の意見（内容）は一つであつても、本文の中

も、国が違えば違う名前になること、または示す物が違って同じ名前と呼ばれる事もある」という事を読み取ってほしかった。

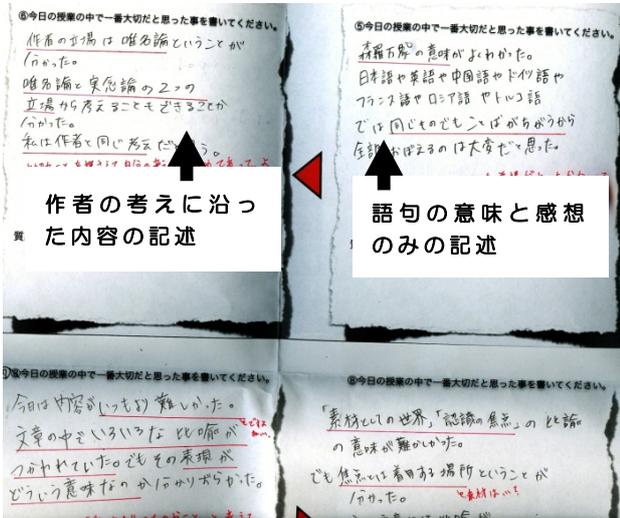


図5 学習履歴の生徒の記入例

したがって、次の授業では、段落の内容を筆者の考えに沿って整理する構成の学習プリントを使用した。その結果、学習履歴⑥では、作者の立場と「唯名論」と「実念論」という二つの存在について記述する事ができていた。

このように、生徒の記述を基に生徒の変容や内面を見取って次の授業や、その後の授業全体の改善を毎時間行った。これにより、常にPDCAサイクルを機能させ、授業マネジメントを行った。

(3) 実習記録と実習校で受けた指導内容から

実習記録と実習校で受けた指導内容から、表3のように、今回の授業実践の結果を4つの観点に整理した。

①教材研究に関して

先に述べたように今回の授業実践は、計画を大幅に超過してしまった。さらに、授業実践中の指導で、本文の理解が不十分であることや、本文を尊重する姿勢の不足を指摘された。これらは、教材研究に関して改善を要する部分であると考えられる。

今回、計画時には、本文を拡大コピーし

たワークシートを使用する予定であった。これは、中心文等にライン引いたり、難し

表3 指導教員と自己評価から得られた結果

授業実践の結果 (実習記録と実習校で受けた指導から)	
(1) 教材研究に関して	
①	授業時数が計画と大きく異なってしまった (全7時間→全12時間)
②	意味段落の分け方を変更したことによって指導内容大きく変更した。
③	本文に対する理解が不十分。
④	本文を尊重する姿勢が不足している。
⑤	指導案で示した指導観に沿った授業を行うことが出来なかった。
⑥	授業の中で扱う内容の軽重がきちんと付けられていない (発問・学習活動・本文の内容)
(2) 発問に関して	
①	使用する教材を途中で変更した。
②	学習プリントは、単に内容を把握できるようにすれば良いわけではない。
③	ワークシートのチェックやプリントの書き込みに関する指示が曖昧。
④	学習プリントの問題の作り方。(端的な表現)
(3) 板書に関して	
①	生徒の立場に立った発問の設定が出来ていない。
②	発問のパターンが一定。
③	誘導的な発問がある。
④	生徒に考えさせる時間が充分でない。
⑤	生徒に考えさせるため、生徒の発言を予測した適切なヒントが用意できていない。
⑥	生徒の反応から発問の難易度を理解し、対応する。
(4) 授業の進行について	
①	板書の構成が十分に練られていない。
②	板書を書く速度が遅い。
③	板書に誤字があった (1回)
④	自分の板書計画の内容を生徒の発言によって授業の中で変更してしまった部分があった。

い表現の意味を直接書き込んだりすることで、本文の読解を円滑にするためである。しかし、指導内容を変更したため、各段落を詳細に扱う学習プリントに変更した。学習プリントも、問いがわかりにくい等問題があった。さらに、ワークシート等にチェックや書き込みをさせる際に、指示が曖昧で生徒に伝わりにくい部分があった。

②発問に関して

授業実践前半では発問を行った際に、生徒が全く答えられないような場面があった。また、「本文で筆者は〇〇と言っているが、それはどういうことか」など、同じような形式の発問を続けて行うことが多くあった。さらに、生徒が回答できなかった時に、補足を加えて過度に自分が想定した解答に誘導している部分があるという指摘を受けた。

それに加えて、生徒が解答を間違えた際、すぐに別の生徒を指名する等、間違えた生

徒に十分に考えさせることが出来ない場面もあり、生徒の反応を予測し十分なヒントを用意することが出来なかった。

③板書に関して

今回の授業実践では、毎時間板書計画を作成した。授業実践の前半では、書く内容が多すぎたり、色分けが充分でなかったりしたため、構成がわかりにくい所があった。また、板書を書く速度が遅く授業の進行に影響を与えてしまった。さらに、生徒の解答を受けて板書計画の内容等を変更してしまった部分もあり注意を受けた。

④授業の進行に関して

授業と授業の時間が長かったため、内容を全て確認する等復習に割く時間が長くなってしまった。また、説明が長く、生徒の解答を繰り返す事も多かった。そして、指名した生徒が解答している時に、他の生徒の発言に気を配る事も出来なかった。さらに、授業実践後半では授業進行に気を取られ、生徒とのコミュニケーションの機会を逸してしまうことも多かった。生徒が間違えた解答をした際に、本文を読んで考えられるような指示を適切に行う事ができないことも多かった。このような技術的な面も授業マネジメントに活用した。

4. 授業実践の考察

(1)今回使用した OPP シートの記述から

OPP シートの学習履歴の記述内容を、3 の 2 でも示した五つの観点に分けて結果を考察した。考察は表 2 に示した①～⑱と対応させて考察する形で表 4 に示した。

①授業の意図に関するもの…【②④⑤⑬⑭】

OPP シートの学習履歴により、自分の授業の意図が生徒に伝わっているかどうかを確認する事が出来た。それぞれの生徒がその日の授業で意図した内容をどのように捉えているかを、実際に生徒が書いた文章で確認し、改善に生かすことが出来た。これは、非常に有

益な事であった。他方で、今回の実践では、国語科における OPP シートの活用の可能性も感じた。その内容は 3 に示した。

表 4 OPP シートの記述に基づいた考察

授業実践の考察 (OPP シートの記述から)
(1) 授業の意図に関するもの
②授業の中で行う活動の意図が正確に生徒に伝わっているかを判断する指標になる。 ④教師が段落分けの意味を説明するなどして伝えきれていない。 ⑤授業の中で活動や大切な所をその都度説明するようにした結果が出た？ ⑬OPP シートを書くことを定着させるには時間がかかる。 ⑭授業を改善した成果が出たとも言える？
(2) 個人の学習状況に関するもの
③机間指導の際に受けた印象が正しかったかどうかを確認することが出来る。 ⑦生徒一人一人の考えや疑問を知り、個別に働きかけることが出来た。 (次時に全体にも返すこともできた) ⑨一人一人の考え方を把握し、それぞれの進度で働きかけが出来る。 ⑩発問の方法や授業展開を振り返り考え直すきっかけにすることが出来る。 ⑪コメントや口頭で働きかけても、「自分の言葉で書く」というイメージが掴めない生徒が多い。 ⑬OPP シートを書くことを定着させるには時間がかかる。 ⑭授業を改善した成果が出たとも言える？
(3) 授業方法の改善に関わるもの
②授業の中で行う活動の意図が正確に生徒に伝わっているかを判断する指標になる。 ④教師が段落分けの意味を説明するなどして伝えきれていない。 ⑥最後に授業全体を振り返って大切な所を示す事が重要。 ⑩発問の方法や授業展開を振り返り考え直すきっかけにすることが出来る。 ⑫読解関する内容と内容に関する事、それぞれに大切なことを書くかを、明確にしたい。 ⑬OPP シートや授業に対する不満が出てきてしまうため、あまり望ましくない。
(4) OPP シートの本質的な問いが構成に関するもの
①1 時間目は「学習前」の記述のみにすることで、学習活動の時間も確保することが出来た。 ⑥読解関する内容と内容に関する事、それぞれに大切なことを書くかを、明確にしたい。 ⑬OPP シートを書くことを定着させるには時間がかかる。
(5) 自己評価
③机間指導の際に受けた印象が正しかったかどうかを確認することが出来る。 ⑨一人一人の考え方を把握し、それぞれの進度で働きかけが出来る。 ⑩自分では解りにくかったと予測していた授業の時に予想に反して解りやすいという記述があった。

②個人の学習状況に関するもの…【③⑦⑨⑩⑪⑬⑭】

授業の中での指名や机間指導を行うだけでは、生徒がどのような状況にあるのか把握することは難しい。しかし、OPP シートの記述を見ると、授業内容の捉え方や理解の状況は一定の方向性を持っていた。このように活用することで、授業改善の中で自分と生徒の捉え方の差を埋めることができた。

③授業方法の改善に関するもの…【②④⑧⑩⑫⑮】

後半になるにつれて、発問の意味が解らない、板書の意味がわかりにくい、授業のどの部分が理解出来なかったか等、具体的に授業の内容を指摘してくれる記述があった。これを基に、発問の内容や板書の構成等を改善していくことで、自分以外の視点から指導の在

り方を根本から見直し、改善する事が出来た。

④OPP の本質的な問いや構成に関するもの… 【①⑥⑬】

今回の授業実践を通して、OPP シートを記入することは生徒にとって難しい活動であることを実感した。したがって、OPP シートの構成を検討し、それ自体を改善するとともに、書き方の指導を行うべきだった。それにより、復習にも OPP シートを活用出来、授業をマネジメントの選択肢も増えたと考えられる。

⑤自己評価について…【③⑨⑩】

教師は、基本的に授業の内容を自分で評価・改善していく。今回の授業実践でも生徒の反応や印象から、毎時間自分で授業を振り返り改善を試みた。しかし、生徒達の記述が自分の印象と一致している時と、正反対なことがあり、生徒が必ずしも教師と同じことを考えているわけではないことを実感することができた。このように、授業改善の中に生徒の視点を入れることができたことは、授業マネジメントを行っていく上で有益であった。

(2) OPP シートの記述を活用して得られた授業改善の観点

①生徒の実態と教師の認識の差を埋める必要性

自分では良いと感じていた授業に対して、生徒の記述も同様に良い場合と、そうでない場合があった。このことから、OPP シートのように、生徒の視点を授業改善に活用する方法を取り入れることは授業マネジメントを行う上で非常に重要であると考えられる。

例えば、板書の書き方やプリントの構成等である。この中では、生徒によって感じ方が全く異なる感想や指摘があった。それらは、授業改善だけでなく個別に対応していく方法を考える上でも役立った。さらに、シートのコメントと口頭で指示を行った場合の効果は、生徒によって全く違った。このように生徒個々の特性に合わせた働きかけをする事によ

って、記述内容がより具体的になった。

②生徒個人に適した指導の必要性

また、OPP シートの学習履歴では「大切だと思ったこと」を書くことを求めた。しかし、感想を書いたり板書を写したりするだけの記述が目立った。そのため、コメントを書いている途中で自分の言葉で書くように指示する回数を増やしたり、「わからない」と書いていた生徒にはコメントで解説したりする等、指導を改善した。それにも関わらず、最後の時間でも自分の言葉で記述する事が出来たのは数名だった。しかし、それ以外の生徒も毎時間少しずつではあるが、授業のねらいに近い内容の記述が多く見られるようになった。これは、OPP シートの記述を活用した授業改善の成果であると考えられる。ゆえに、生徒一人一人に適した指導を行うことも授業マネジメントを行う上で重要であるといえる。

③学習と評価の融合の必要性

これらのことから、継続的に OPPA を行っていく事は効果的であると考えられる。また、難しい活動であるからこそ、授業の中で OPP シートを書けるように指導することは、それ自体が授業の内容について考え、判断し、自分の言葉で書いて表現することになる。これは「書くこと」の学習にも繋がり、問いを工夫することで、授業マネジメントの道具としてだけでなく、国語科の学習として位置付けることも可能であると考えられる。

(3) OPPA 活用に関する改善の観点

昨年度の研究で、多数の評価材を用いることは、生徒の学習状況を把握する上で有効であるものの、教師の負担が大きいことが課題となっていた。したがって、一枚のシートのみで行う事が出来る OPPA は、授業マネジメントを行っていく上で教師にとって有効な方法であると言える。今後、この OPP シートをよりよく活用する為に、今回の授業実践から得られた OPP シートの具体的な改善の観点は以下の3点である。

①シートの構成に関して

- ・学習履歴を細分化する（読解・内容・自分の考え・感想・質問等）
- ・毎時間、学習前が目に入る構成にする。

②シートの運用に関して

- ・きちんとシートを書けるようになる事を学習活動に位置付けて指導していく。
- ・シートを書く時間に書き方の説明を行う。
- ・授業の中で大切な事を明確に示すような指導を行う。
- ・生徒の学習に生かせるような端的なコメントを目指す。
- ・シート自体を学習の一つとして位置づける。

③シートの活用に関して

- ・コメントを介した文字のコミュニケーションツールとして活用する
- ・教材の内容を深化させる場として活用する。

④シート全体に関して

- ・自分が授業の中で行った指導と、OPPシートの記述を対照させて改善に生かす。
- ・考える場として OPP シートを活用していく方向性を研究する。

(4) 実習記録と実習校で受けた指導から

私は現代文の指導において、次のような事を最終的な目標の一つとしている。それは、「本文の内容を正確に読み取り、その上で内容について考えを深めることを生徒が自分の力で出来るようになること」である。そして、実習の中で次のような指導があった。それは「高等学校の国語科では受験指導と本質的な内容に関する指導を両立させなければならない」というものである。

一例として、「現代文で扱う教材の内容は原則として一つしか無く、それを読み取る事が授業において重要である」がある。このような考え方に基づいた授業を参観させていただく中で、自分が持っている国語教育観をより明確にする事ができた。このことで、授業の目的が明確になり、授業マネジメントを行う上で有益であったと考えられる。

①実習校での指導等から得られた反省点

今回の授業実践では、改善すべき点が多数あった。しかし、それに対応できるだけの教材研究を行う事ができていなかった。ゆえに、適切な授業改善が生徒の側に立った指導計画の立案が出来ていなかったと考えられる。これらを踏まえて、今回の授業実践から考えられる主な反省点は以下の6点である。

- ・授業時数が当初の計画よりも多くなった。
- ・教材研究が不十分なところがあった。（段落の数・内容理解）
- ・生徒の実態にそぐわない指導内容だった。
- ・指導内容を変更せざるを得ない部分が多く出てきた。
- ・途中で指導の方針を大きく転換せざるを得ない部分があった。
- ・発問に軽重がつけられない等、授業にメリハリが無くなってしまった。

②授業改善の観点

今回の授業実践の中で得られた改善の観点を4つに分けて表5のように示した。

表5 指導教員と自己評価の結果に関する考察

授業実践の考察（実習記録と実習校で受けた指導から）
(1) 教材研究に関して
・教材の内容一つ一つをきちんと把握しておく。 ・教材の内容と生徒の状況に則した明瞭な目標を立てる。 ・生徒の現状と学習内容の乖離を少なくする。
(2) 発問に関して
・内容と発問の軽重をつけて指導計画を作成する。 ・生徒が理解しやすい端的な発問を心がける。 ・発問に対する生徒の反応で発問の難易度を図り、対応できるようヒント等を用意しておく。
(3) 板書に関して
・板書の内容を厳選し、最小限の記述を心がける。 ・書く速度を速くする。 ・授業終了後に見直す事で、授業全体を復習できる構成であるように板書計画を設定する。
(4) 授業の進行について
・生徒が考える時間を考慮した授業進行。 ・OPPを活用して復習をスムーズに行うことが出来るように、授業の中で大切な所を明確にしておく。

○教材研究に関して

今回の授業実践で、授業を行う上で最も必要なことは、徹底した教材研究である事を改めて実感した。それにより、授業の目的を明確にし、確信を持って授業を行う事が出来ると考えられる。また、教材研究が不十分な場合、有益な授業改善を行うことは難しい。例

えば、今回の実践では、単元の中で指導を変更せざるを得ない場面が多くなっていった。

○発問に関して

授業で扱う内容の中で、教師が大切だと考えている部分について、生徒がきちんと考えられるような発問を行わなければならない。同様に、確認すれば良いだけの発問は、ヒントを含んだ解りやすい発問にする等、発問に軽重をつけていく必要があると考えられる。

また、発問の内容や意図を生徒が理解できるように、なるべく短い言葉で主旨だけを伝えるようにする必要がある。さらに、自分の行った発問を生徒の解答から迅速に評価することが求められるため、生徒の反応を予測してヒントを用意する等、対応を準備することが必要である。今回の実践における授業改善は、発問に関する内容が多かった。

○板書に関して

今回の実践では、板書計画をいかに単純化して速く書くかを重視するようになってしまった部分があった。したがって、板書の構成の工夫や、効率を重視していく事が必要だと考える。また、一見して授業全体を把握できる構成になるように板書計画を設定することも授業マネジメントの一環であると考えられる。そのために、単元全体の指導案の中に板書計画を含めること等が必要であると考えられる。

○授業進行に関して

授業を進行していく上で、大まかな時間配分だけでなく、発問や考える時間等を詳細に検討する事も、自分の授業の形を確立していく過程においては非常に重要であると考えられる。このような技術的な面も今回の授業実践で計画を大きく逸脱した要因である。しかし、技術的な面からだけでなく、本質的な要因と合わせて改善する必要があると考える。

おわりに

今回の授業実践を通じて、自分の授業の未熟さと授業をマネジメント行うことの難しさ

を実感した。これは、教育実習でも感じたことである。しかし、今回の授業では、実習校の先生の授業を参観させていただき、授業実践中も毎時間指導していただいた。そのため、今回の研究行う事が出来た。

また、授業マネジメントを実現させるためには、徹底した教材研究が必要であることを痛感した。さらに、授業を評価するための道具の必要性を強く実感した。今回は、授業の中に OPPA を取り入れた。それにより、自己評価から授業をマネジメントしていく事しか出来なかった学部の教育実習の時とは異なり、生徒側の視点を取り入れることが出来るようになった。その結果、ある程度生徒の実態に沿った指導を行う事が出来たように思う。

今後は、今回得られた改善の観点を基に実践を行った教材研究を再度行う。そして、学習指導案等を改善することを初め、今回の不足を補い授業実践を積み重ねていきたい。また、授業の中で課題だった授業技術や生徒とのコミュニケーション方法、OPP シートの運用方法なども含めて検討していきたい。

そして、改善点を補い続けていくことで授業力を向上させていきたいと考えている。

主要参考文献

- 堀哲夫「認知過程の外化と内化を生かしたメタ認知の育成に関する研究—その 1-OPPA による外化と内化のスパイラル化の理論を中心に—」『山梨大学教育人間科学部紀要 第 11 巻』2009 年
- 堀哲夫・山下春美「認知過程の外化と内化を生かしたメタ認知の育成に関する研究—その 1-OPPA による外化と内化のスパイラル化の実践を中心に—」『山梨大学教育人間科学部紀要 第 11 巻』2009 年
- 堀哲夫・進藤聡彦『一枚ポートフォリオ評価 中学校編』日本標準 2006 年
- 町田守弘『国語科の教材・授業開発論 魅力ある言語活動のイノベーション』東洋館出版社 2009 年
- 大槻和夫 益二憲一『中学校・高等学校国語科指導法』建帛社 2009 年